

SOUNDSCAPE 調布

都市におけるサウンドスケープデザインの研究

計画の背景、目的

都市音環境に言及するとき、騒音問題はかならず避けられないことである。しかし、「サウンドスケープ」の視点から見ると、都市の音環境は複雑な特徴があるため、ある音を単純に「騒音」として捉えるのは不適切だと考えている。

環境の中に存在する音は大きく、「自然の音」、「人工の音」の2つに分けられる。両者は決して対立な関係ではない。都市の音環境に置いては、自然音と人工音共存するのは人々に気持ちからの変換を与えられると考えている。

賑やかな場所の音環境のイメージは普通騒々しいだが、まち全体それぞれの機能によって、駅、商業施設、学校、住宅地、公園、神社とお寺などの場所は、それぞれ異なる音の一つの音環境に組み合わせ、そして「人工音」と「自然音」の両方共存する都市音環境となっている。

都市機能が完備な場所は、音環境の要素も多様化していると考えている。このような豊かな「音資源」のある町で、音のための場所をつくて、元の環境音を楽しむ以上、「サウンドスケープ」の要素をさらに応用する、「音」のための場所を作るのは本提案の目的となっている。

敷地の概要、周辺環境

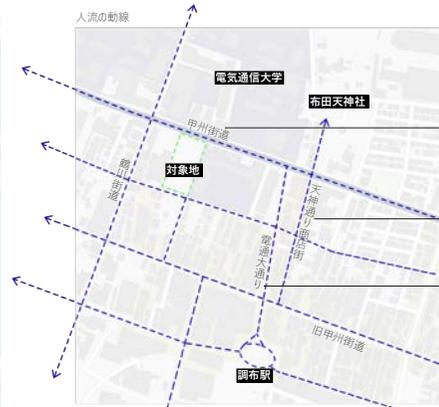


なぜこの場所を対象地として選ぶのか？

対象地を決定する前に、まず考えるのはこの場所がどのような環境音を持っているのか、周り他の緑のある場所があるかどうかのこと。対象地は調布市の調布駅北側に位置する。東側と東北側は電気通信大学と布田天神社があり、樹木がたくさん植えている。

調布駅から布田天神社までの路線は、交通音、人の活動うの音などの人工の音から、鳥の声、葉っぱがこすれる音などの自然の音への変換の路線である。人の気持ちは環境音の変化により思わずに変化する。この変化は簡単に悪いから良くなるではなく、にぎやかで騒々しい音も、この街全体の音環境の特徴の一つで、自然音と一緒に、この場所らしい音環境になるのである。

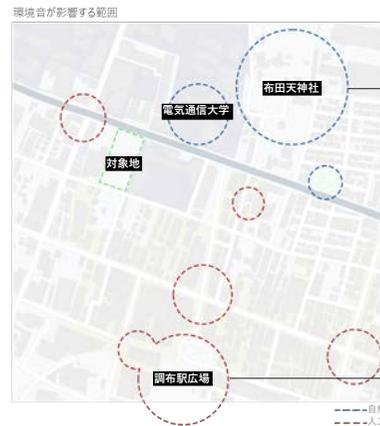
調布駅と布田天神社の間に位置する対象地は豊かなくて、このまちらしい音環境を持っていると考えている。



甲州街道西は高速道路と繋がっているため、車流量が対象地周辺のエリアで一番多いの道路になった。それによって、交通音が大い。

車通行できない

電通大通りは調布駅と電気通信大学を繋いでいる。布田天神社へ行く人々はよくこの道路を利用する。



布田天神社の周辺は高木がたくさんあるため、鐘の音、葉っぱが風よりこすれる音、鳥の声、蝉などの季節により虫の音などの自然の音は周りの場所でも聞こえらる。

調布駅広場の周りは人流量と車流量が大きい場所であり、町の人々はよく広場で集めて、活動を行われる。自然の音はほほいしいが、調布らしい環境音を感じることができる。



対象地周辺緑が一番集中する場所は電気通信大学と布田天神社の周りである。特に布田天神社は長い歴史があるため、境内の樹木は非常に大きくなり、ちょっと遠い場所からも緑の樹冠が見えらる。

吉松稲荷神社は主道路のすぐとなりだが、そこにいるときは、周りの植物に視線を引かれて、感覚から交通音を少し消した。

商業施設の間で、緑が少し狭まっている。

調布駅に近く場所は、ほほいしいが見えない。



調布市は住宅地がたくさんあるため、他のお待ちにより更に静かな環境音を持っている。

このエリアの商業施設はだいたい調布駅の周りで集中する。

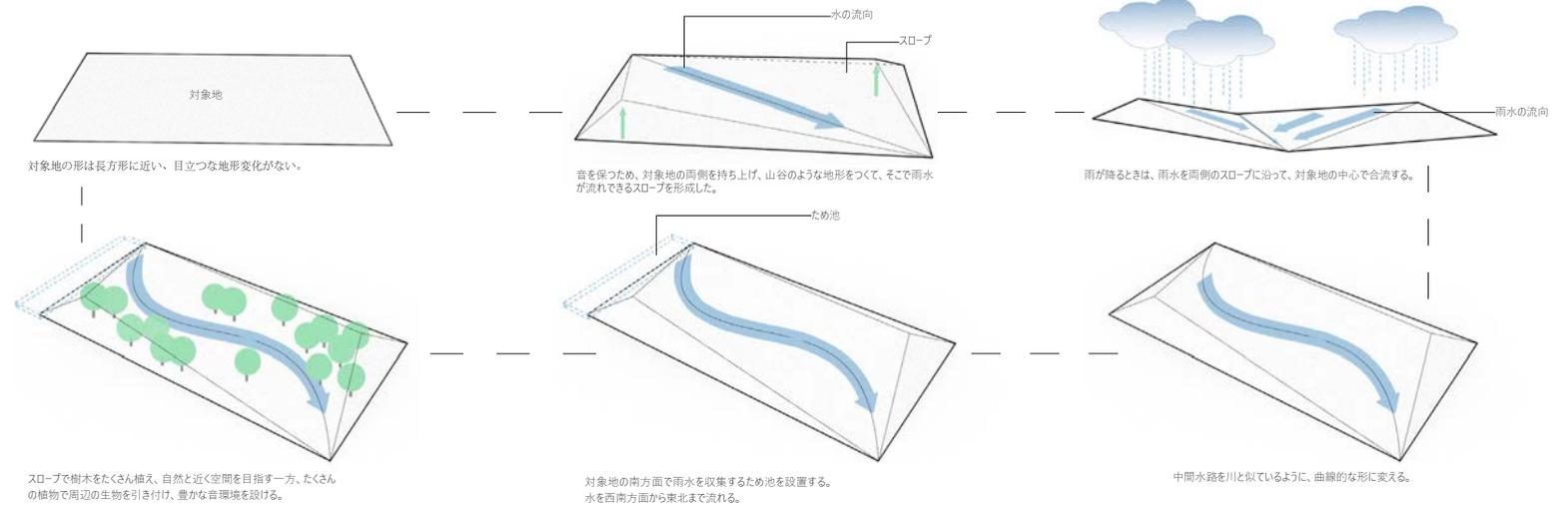
設計の概要

水の音をとらえるため、流れ水や滝などを不可欠だ。しかし、川のないエリアでは、流れる水を実現するのは、電気で揚水しなければいけない。そこで、電気を利用せずに、流れる水を達成する方法はあと地形を改造することだ。

対象地周りの雨水を下水道管などに用いられる水取り勾配のことを指し、水をため池で収集し、雨を降ったあとの日では、収集した水を出して、人工の川で水を流れさせる。流水音は騒音を削減するの役割は必要がないとしても、単純に自然音として楽しめる。

川床全体に3つのスロープを設置した。水は流れるが傾きに気付かない勾配は1%程度と言われ、水の音をはっきりと人々に聞こえるように、川床は傾斜する角度が少なくとも4%以上で設置された。

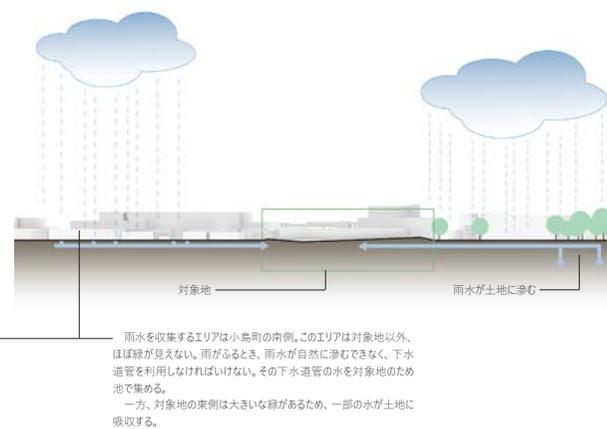
流れ水ための地形



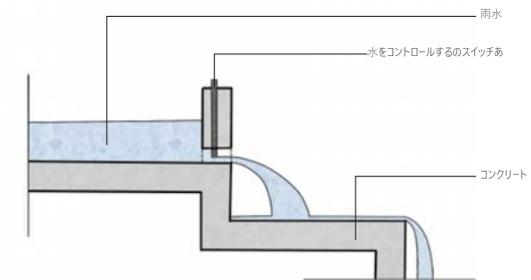
雨水収集するエリア



町の水を集める



ため池給水弁イメージ図



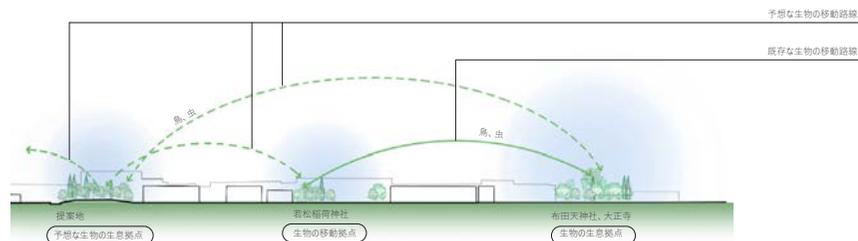
雨が降るの日では給水弁を閉め、周辺エリアの雨を排水管でため池に集める。雨のない日は給水弁を開けて、収集した雨水を対象地の川で流れさせる。

生態系ネットワークの形成

石と石の間が雑草が成長し、虫に活動できる空間を提供しました。更に、大量な樹木は鳥や小動物に移動な拠点をつくる。

対象地は新しい生物の拠点として、生物達をどんどん引き付け、新たな生態系ネットワークが形成できると考えている。

虫の声、鳥がさえずる声、蛙の鳴く声、葉っぱと風の音などの自然の音がこの空間で集める。更に、主幹路と近いため、交通音がここまで伝え、自然の音と対比になり、人々を更に身周りの自然を意識するかもしれない。



潜在自然樹生



平面図

断面 1

断面 2

森の空間は緑に囲む空間で、より静かな雰囲気を感じられる。この空間にいる人々は、森のような景色を楽しみながら、葉がこすれる音や虫声等の音を聴いて、更に自分が都会と違いの自然的な空間にいると強く感じられる。



雨水を収集するコジマ池

コジマ川

コジマ川両側の園路と擁壁の表面は石

コジマ池両側のところは木材の舗装

石の擁壁

流れる雨水はここで合流する

40m

37m

36m

41m

38m

38m

水音の空間は本提案の中心で、対象地を貫通する川を作った。対象地南のため池からはじめ、収集した雨水を対象地全域で流れさせる。

虫声の空間は虫たちが生きやすい環境を目指して、「虫声の池」を作った。石と雑草の空間になった。石と石の間に虫に活動できる空間を提供しました。この空間は提案の中の一番音環境が豊かな空間かもしれない。

1 : 2 5 0

水音の空間



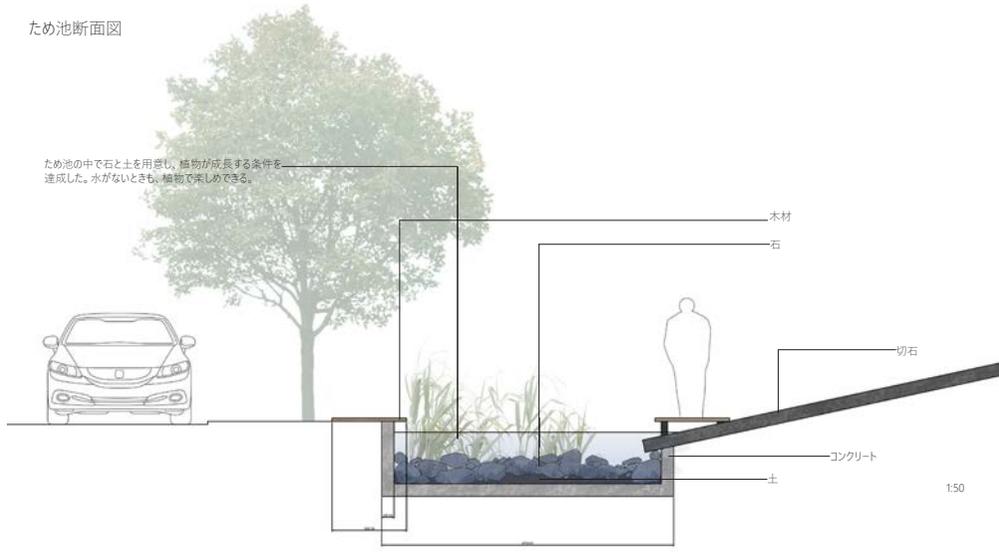
森の空間



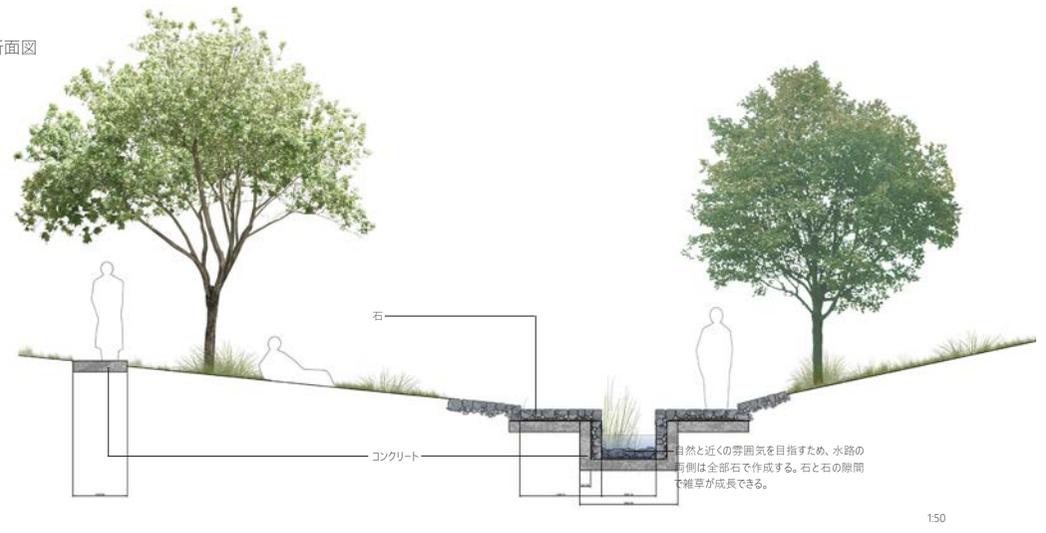
虫声の空間



ため池断面図



水路断面図



横断面 1



横断面 2

